

インクルーシブ事業連合の構成団体を紹介しませ〜東京コミュニティパワーバンク〜

市民がつくった市民のための非営利金融

東京コミュニティパワーバンク(以下、東京 CPB)は、2003年9月に「生活クラブ運動グループによる21世紀型地域機能づくり構想」をもとに設立した、非営利の市民金融です。市民自身がお金を出し合って、ワーカーズコレクティブや NPO 等、市民事業を支援するための金融システムをつくりあげました。

お金を意思を持たせよう!

一般の金融機関はなかなか市民事業に融資しません。また、金融機関に預けたお金の行き先が預金者に知られることはなく、まして預金者が行き先をコントロールすることなどできません。国債やアメリカ国債を通して、預金者



環境まちづくり NPO エコメッセ・市民力発電所(ケアセンター世田谷屋上の太陽光パネル設置)



生活クラブ生活・風車建設(秋田県にかほ町)

融資団体の一部をご紹介します



生活クラブグループ

の意思にかかわらず原発、兵器産業、児童労働、環境破壊につながっているかもしれないのです。

東京 CPB は地域社会に役立つ目に見える金融を提案し、設立から10年のあいだに、主に東京都内で活動する約60の環境や福祉の市民事業に2億5000万円弱の投融資をしてきました。大切なお金は、子どもたちの将来のため、自分の住む地域を豊かにするために使いたい、と願う約600人の市民たちによって運営されています。

あなたも、自分たちの住む地域の社会的な事業(介護・障がい者福祉、子育て支援、環境保全...etc)を応援しませんか?



ほっとコミュニティえどがわ(江戸川区)入居者とスタッフの食事会



NPO法人こすもす(八王子市)カフェこすもす お披露目会

東京コミュニティパワーバンク (CPB)

ホームページ <http://www.tokyo-cpb.org/>
〒160-0021 新宿区歌舞伎町 2-19-13 ASKビル 5階
TEL: 03-3200-9270 FAX: 03-3207-1945

まちのほっとスペース(のたまご)@西東京市 木・々(もく・もく)

まちのほっとスペースは「居場所」「相談」「ちょっとした困りごとの手助け」の3つの機能を持ち、ワーカーズまちの縁がわが運営しています。

コミュニティレストラン木・々でケアラズカフェがスタート

ケアラーは無償で介護に携わる人のこと。その多くは家族です。ケアラズ・カフェは介護に関するおしゃべりや仲間づくり、情報収集などができる憩いの場です。当日は2人のケアラーを中心に、日常の介護に向き合う中での思いを受け止めながら、それぞれの経験からのアドバイスなどが話されていました。

木・々でケアラズ・カフェを始めたきっかけは、メンバー2人がNPO法人アラジン(「ケアする人のケア」を掲げている市民団体)の「ケアラズ・カフェ立ち上げ講習」を受け、背中を押されたからです。そのひとり、代表の鈴木美紀さんにお話を伺いました。

自分たちの居場所でもある木・々で、愚痴のひとつも言ってから気を取り直して介護ができた、情報交換ができて心



代表の鈴木美紀さん

強かった等の経験も始めたきっかけになったとのこと。介護保険が在宅重視になると、ますます介護者への手助けが必要になり、介護者が元気でいられるような支援も欠かせません。

ケアラズカフェからまちのほっとスペースへ

木々はコミュニティレストランとして「誰もが来られる地域の居場所づくり・コミュニティづくり」をめざして13年やってきました。まちのほっとスペースの取組みも計画中です。

現在、まちのほっとスペースに必要な3つの機能のうち、相談と居場所の機能は既に備えているので、ちょっとした困りごとの手助け(ちょこっとサービス)を担う人材がいればスタートできそうな段階とのこと。ただいま人材を大募集中です! 関心のある方は、ぜひ下記までご連絡ください。

コミュニティレストラン木・々(西東京市)

営業時間: 毎週 月~金(祝日を除く) 10:00~16:00
ケアラズカフェは月2回(第1・3水曜日)開催。
※日時はあらかじめ電話でご確認ください。
住所: 西東京市保谷町 6-25-1
Tel: 042-425-6800 (10:00~17:00)



地域に生まれる子育て支援のカタチ〜子育て支援フォーラム 2013 報告〜



基調講演 講師
池本 美香さん
(株)日本総合研究所
主任研究員

お金がなくても親の参画で保育の質を高めることができるというデータに基づいた池本さんのお話はとても興味深いものでした。また、日本の子どもの3人に1人が孤独を感じているということも、どうか対策をしなければならないと感じました。世の中は科学技術の発達で人に直接会わなくてもそれなりに楽しい生活ができる便利な時代になり、煩わしい人間関係は避けて通ることも可能になりました。反面、人間関係でつまずいたときに立ち直る練習が不足がちなために、子ども達が孤独を感じやすくなっているのではな



いかと思います。生活クラブ子育て広場ぶんこでは、おもちゃのとりあいなどをする場面、小さい子が大きい子の後をついて回る場面など社会の縮図を垣間見ることがあります。私たちスタッフは、安全に気を遣いながら子ども達がいろいろな経験をすることができるだけ口を出さずに温かく見守るようにしています。

親子で集い遊びの中から育つことのできる広場はこれからますます重要になってくると思います。ただ広場事業はなかなか採算が取れず、厳しい状況にありますが、フォーラム後半の地域でNPOとして子育て支援の活動を積極的に展開されている3名の方のお話からは「やる気があれば必ずできる」と元気をいただきました。

ワーカーズ・コレクティブ子育て応援チームすこっぷ
北後真智子

パネルディスカッション

- コーディネーター・土谷雅美 生活クラブ生協東京理事長
- パネラー(左から)
蓮見純子さん NPO 法人ワーカーズ・コレクティブちろりん村理事
浦辺左由美さん NPO 法人グランマ富士見台理事
磯道静香さん NPO 法人ピッピ・親子サポートネット副理事長

のんびり、ぼちぼち、ほどほど、だいたい...おおらかに、まあいいじゃない! 「ゴジカラ村」見学報告 第9回もうひとつの住まい方推進フォーラム オプショナルツアー

ゴジカラ村は「アフターファイブ」、数字や時間にとらわれず、効率や成果ばかりを重視するのではなく、人生ゆっくり楽しむことを大切にしたいという思いが込められている。

愛知県長久手町の約1万坪の雑木林に囲まれた土地に特別養護老人ホーム「愛知たいようの杜」、ケアハウス「ゴジカラ村」、デイサービス「ゴジカラ村」、幼稚園「もりのようちえん」、託児所「コロボックル」、古民家「ほとぎの家」、愛知総合看護福祉専門学校などがある。

●コンセプトは無駄を大切に。同じものだけを集めて効率化しない。のんびり、ぼちぼち、ほどほど、だいたい。混ざれば揉め事も起こるけど、おおらかにまあいいじゃない! が大事。笑顔、挨拶、言葉遣い、相手の目を見て話を聞く。

時間があるが、居場所がない人が増えている現代において、一人ひとりの役割と居場所があって、お互いの存在価値を認め合える、そんな空間となっていて、混ざり合うしかけが随所に見られた。

●自立した高齢者の住まいであるケアハウスは24時間見守り付き。入居時に170万円、月々食費込みで6~11万円と年金額によって異なる。介護が必要になっても、同じ法人内で訪問介護やデイサービスを利用したり、いよいよ難しくなったら特養に移ることができるので安心である。特養の屋上には菜園があり、地域の人が世話をしにきている。

もりのようちえん



ほとぎの家



●3軒の古民家を移築して活用、そのひとつ「ほとぎの家」で子どもの預かりをしている。保育所の届出ではなく、高齢者の生きがい支援事業としての登録。近所のおじいちゃんやおばあちゃんとお留守番の感覚。発想の転換である。

●もりの幼稚園(運営:学校法人吉田学園)ではいわゆる遊具というものではなく、210人の園児が縦割りのクラスで毎日過ごす。3~5歳の上下関係がやさしさや思いやり、助け合いや協力し合いを育て、コミュニケーション能力や自分で考える力を高めている。自然の中で思いっきり遊びを学ぶ。下駄箱に並ぶかわいい色とりどりの長靴の列が印象的。自然の中では暑さや寒さはどうにもならない。子どもも自然の一部で、だからこそ大人の思うとおりにしようとはせず、子どもの成長を見守りながら親も育つ、そういう視点で取り組んでいる。こんな環境で育った子どもは、豊かな感性と人間力が養われるに違いないと感じた。